

インターバンクの声（2015 年 11 月 9 日）

金曜日に発表された 10 月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月に比べて 27 万 1 千人増と、ドル売りなのか買いなのか迷う必要もない増加となり、ドルは主要通貨に対して大幅上昇となった。特に顕著だったのがドル買い・ユーロ売りで、1.07 ドル台までのユーロの値下がり約 6 カ月半ぶりのことだ。ドル円も 8 月の後半以降なかなか超えられなかった 122 円を突き抜けて一気に 123 円台までドルが買われた。失業率も 5.0% に改善されてリーマンショック前の水準にまで改善されたとあって、市場は米連邦準備制度理事会（FRB）が 12 月に利上げする可能性が高まったとの見方を高めているのも無理はないだろう。しかし、イエレン FRB 議長はじめ連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーは、たびたび今後の利上げを決定するには経済データが重要になると発言しており、12 月 4 日にもう一度ある雇用統計を含め、個人消費、設備投資、企業収益などの結果が注目されている。結果によっては、原油安や新興国の景気減速の影響を大きく受けていることを示す証左として、利上げが来年に先送りされる可能性もあるだろう。今後の相場は、こうした利上げ見通しに慎重な見方をする人たちがどれだけ残っているのかに左右されることにもなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。